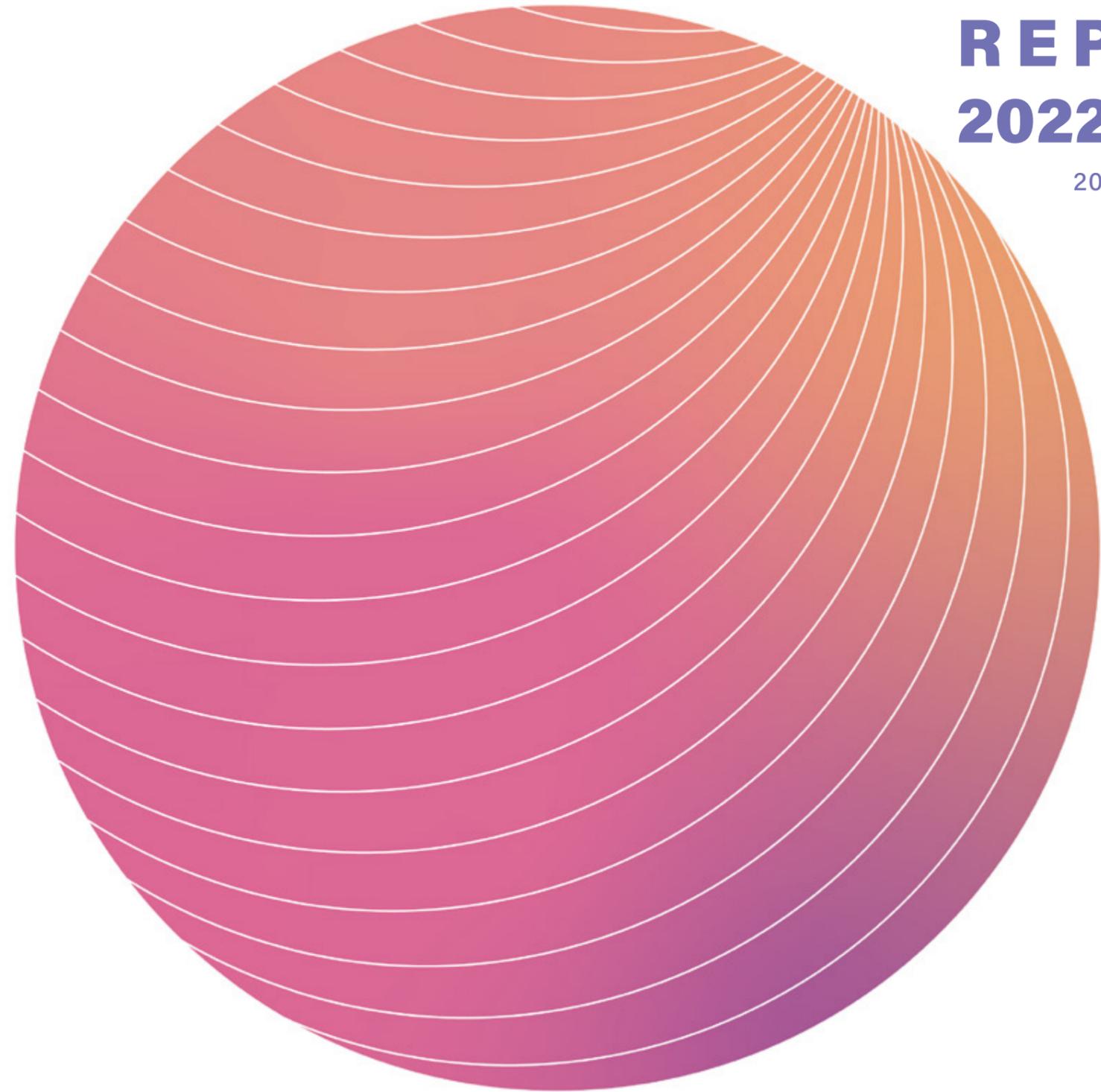


SIMI ANNUAL REPORT 2022-2023

2022.07 - 2023.06



「社会的インパクト・マネジメント」の 社会実装により、社会価値創造を促進する

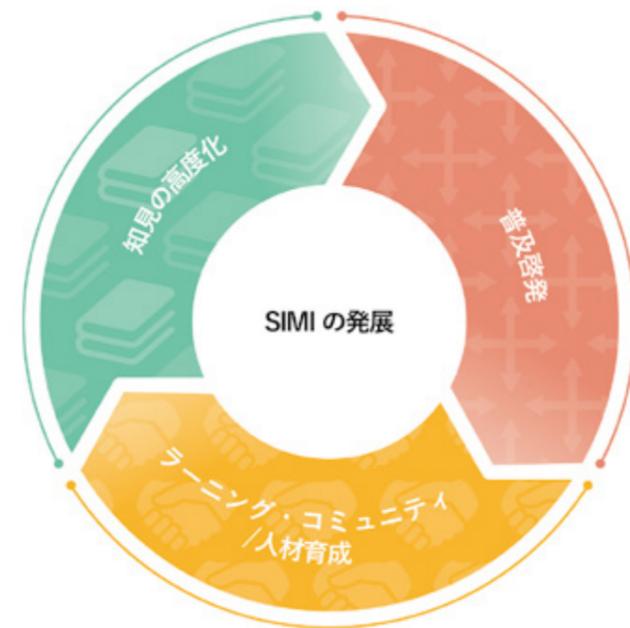
設立3年目となる2022年度は、SDGインパクト基準研修やインパクト・アナリスト研修など新たな事業を実施しました。2022年度の活動を通じて、SIMIの活動に参加するステークホルダーは広がりを見せています。

VISION

社会的インパクト・マネジメントが実装され、
社会課題解決や社会価値創造が行われている社会

MISSION

あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを
促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた
参画・協働を加速する共創基盤を提供します。



知見の高度化
実践、研究から生まれたSIMに関する知見を高度化、可視化し、他の様々な事業や外部組織などが活用可能なアウトプットを創出する。

普及啓発
SIMの認知拡大や潜在ステークホルダーとの新しい出会いを創出し、ステークホルダーの行動変容に繋げる。

ラーニング・コミュニティ/人材育成
本領域において、これから実践する人など本領域を担う人材を育成するとともに、実践者が相互に学び続ける、信頼関係に基づいたコミュニティを形成する。

※SIM=社会的インパクト・マネジメント

代表理事から見たSIMI2022年度とこれから | 今田 克司 | SIMI代表理事

世界に、そして日本に、インパクトの「追い風」が吹いていることを、SIMIの活動を通して日々実感しています。本年度は、Social Impact Dayのメインテーマでもあったように、その「追い風」をいかに形あるものに結実させていくか、インパクト・エコノミーをいかに実装させていくか、その試行を強化していった一年だったと思います。特に、SIMIは社会的インパクト・マネジメントの促進を旗頭に置いており、これが金融セクターでIMM（インパクト測定・マネジメント）として普及しつつあることを歓迎し、それをより効果的なものにするお手伝いに取り組んでいます。今後も、サステナブルで公正な社会を実現していくために、官民間問わず、さまざまなセクターがインパクトに正面から取り組んでいくことを後押ししていきたいと考えています。

SIMI COMMENTS

2022年度の主な取り組み

設立2年目となる2021年度は、2020年度の事業に加えて様々な新規事業に取り組みました。特に人材育成事業やコミュニティ形成は2021年度の主要な取り組みです。

2022.07

インパクト・アナリスト研修第1期実践編を開催
(国際交流基金助成)

社会課題解決や価値創造に向けた意思のある資金提供者を育成するインパクト・アナリスト研修の第1期実践編を実施。16名が修了。



世界に先駆けて日本でのSDGインパクト基準研修の提供開始を記念したグローバル発表会を開催

アヒム・シュタイナーUNDP総裁も3年ぶりに来日し、講演を実施。また、SDGインパクト基準研修の公式研修教材の日本語訳作成にSIMIが協力し、UNDPより感謝状を授与されました。



2022.10

明治大学リバティアカデミーへ社会的インパクト・マネジメントの講座を提供

明治大学リバティアカデミーと連携し、社会人向け講座『社会的インパクト・マネジメント基礎講座～「インパクト」を最適化し、社会課題解決を促進する新たな手法～』を開催。

2022.08

世界初のUNDPのSDGインパクト基準研修認定講師4名がSIMIから誕生

Accredited Trainer for the SDG Impact Standards (Powered by UNDP, together with an active network of partners)



2022.08-10

世界初のSDGインパクト基準研修を開催

株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社みずほ銀行の行員30名へ研修を提供

2023.02

Social Impact Day2023を開催。600名超が登録。

本年のテーマは新しい社会経済の形「インパクト・エコノミー」の社会実装。基調講演ゲストにロナルド・コーエン卿（インパクト投資グローバル運営委員会(GSG)会長、ポートランド・トラスト会長）と、藤沢久美氏(株式会社国際社会経済研究所理事長)を迎えた。



2022年度 メディア掲載実績

- 2022.08.16 「会計の力」で社会課題の解決を促進インパクト加重会計が作る近未来の資本主義 (日経BP・未来コトハジメ)
- 2023.03.21 プラスの変化 社会へのインパクト投資で後押し (朝日新聞)
- 2023.06.01 SIMIが進める インパクト投資の人材育成 (月刊事業構想7月号)

インパクト・アナリスト研修

「インパクト・アナリスト研修」は、社会課題解決や価値創造に向けた意思のある資金提供者において、社会的・環境的インパクトを最適化しながら資金提供を実践できる「インパクト・アナリスト」を育成するための実践型の研修です。本研修事業は国際交流基金との協働事業として実施しています。

2021年度～2022年度のインパクト・アナリスト研修の実施概要

第1期

[基礎編]

2022.01～2022.06
参加者数：20名

実践編は、既にインパクト・ファイナンスにおける基礎的な知識を習得し、インパクト・ファイナンス及びIMM(インパクト測定・マネジメント)をすでに実践している、あるいは直近でかつ具体的に実践予定がある資金提供者を対象に、基礎レベルから実践レベルへのステップアップを支援する研修。北米・欧州・アジア等でインパクト投資・IMMの推進を行う米国Impact Frontiersとのコンテンツ提携により実施される全6回の講義を通して、実践を想定したケーススタディと事例に触れ、ご自身の専門とされる金融活動の中でIMMを正しく実践するための模擬的経験やヒントを得ることで、実務レベルでの理解とスキルを高めることを目標としています。

回	概要	講師
1	財務とインパクトの統合 (インパクト・フロンティア提供講座)	 Mike McCreless (Impact Frontiers Executive Director)
2	インパクト・レーティング	 須藤 奈応 (Impact Frontiers Director)
3	インパクト測定とリーンデータの アプローチ/メンターセッション	 Sasha Dichter (60_decibels CEO)
4	投資家の貢献 (インパクト・フロンティア提供講座)	 Mike McCreless (Impact Frontiers Executive Director)  須藤 奈応 (Impact Frontiers Director)
5	Impact Frontiers の IMM の 枠組みを活用した事例紹介	 Caitlin Rosser (Calvert Impact Director, Impact Management)
6	インパクトファイナンスと IMM の 実践における日本での課題と挑戦	 今田 克司 (一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事)

第2期

[基礎編]

2023.01～2023.06
参加者数：28名

受講者はまず全4回の動画講義を視聴し、各講義に対する事前課題への取り組みを通じて参加者自身の課題意識や問いを明確にしました。その後、全4回のライブ講義(各回2時間半)における講師・他の受講者とのディスカッションを通じて各テーマの理解を深めました。

回	概要	講師
1	・イントロダクション ・社会的インパクトの潮流と現在地	 今田 克司 (SIMI 代表理事)
2	・インパクト創出における資金提供者の役割 ・インパクト・ファイナンスを理解する	 安間匡明氏 (社会変革推進財団 エグゼクティブ・アドバイザー)  水口剛氏 (公立大学法人高崎経済大学 学長)
3	・インパクト測定・マネジメント(IMM)のステップ ・インパクト測定・マネジメント(IMM)の具体事例	 菅野文美氏 (一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・エコノミー・ラボ 所長)  久納 裕治氏 (株式会社 CureApp 最高財務責任者 (CFO))
4	・インパクト・エコノミーの時代 チェックアウト	 金井司氏 (三井住友信託銀行株式会社 フェロー 役員 チーフ・サステナビリティ・オフィサー)  松原稔氏 (りそなアセットマネジメント株式会社 常務執行役員責任投資担当)

第2期

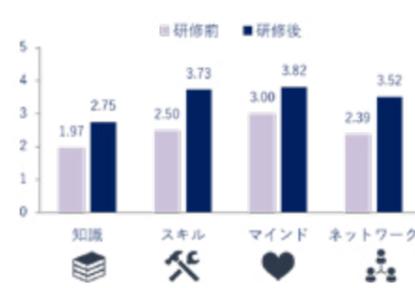
[実践編]

2023.07～2023.12
参加者数：18名

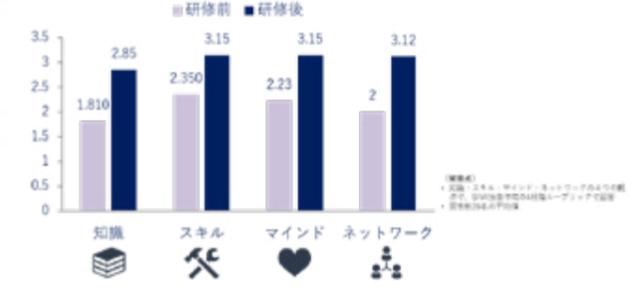
アンケートからみるインパクト・アナリスト研修の成果

本研修では、研修の成果を可視化し、研修プログラムを改善、発展させるために受講生アンケートとインタビューを実施しています。2022年実践編、2023年基礎編においても、研修によって得られる成果を「知識」、「スキル」、「マインド」、「ネットワーク」の4つの観点に整理し、SIMI独自作成のルーブリックを用いて受講生がそれぞれの観点について自己評価を行いました。

2022年度実践編成果



2023年度基礎編成果



参加者コメント

スキルの変化

これまではツールにフォーカスしており、いかにツールを使えるようになるかを考えていた。しかし研修を通じて「これは何のためにやっているのか？」を問うようになった。

マインドの変化

インパクト投資普及発展のために必要なことが見えたという視野の変化があった。

ネットワークの変化

多様なインパクト投資家がいることを実感として学べた。投資家側も投資先側も、アーリー、レイター、上場など、色々なステージに立つ企業に異なる立場から投融資という方法で語る人たちがいるという事が分かり、具体的な繋がりができたのが収穫だった。

スキルの変化

クライアントから「インパクト投資も流行っているし」と言われたときに適切な返しができず、悔しい思いを経験したことがある。研修を経て、投資を希望する事業会社と会話を深められるようになり、またベンチャー企業との対話力があがったと感じている。

マインドの変化

・インパクト投資に関わるということが、自分のキャリアの中で現実化した。そのきっかけになり、ようやく足を踏み入れることができた。
・パラダイムシフトが起こり、明確なキャリアの軸ができた。

ネットワークの変化

セミナーではえられない、実務者同士のつながりが出来たことが大きかった。

実践編におけるImpact Frontiersとのコンテンツ提携

実践編では、北米・欧州・アジア等でインパクト投資・IMMの推進を行う米国の団体Impact Frontiersとのコンテンツ提携のもとで、インパクト・ファイナンスの基礎レベルから実践レベルへのステップアップを支援する研修を提供しました。国内だけでなく、海外の最新事例によるケーススタディや日米の講師とのディスカッション、受講者同士のピア・ラーニング等を通して、インパクトファイナンスとIMMの実践に必要なとされるテーマを総合的に学ぶ機会となりました。



Impact Frontiers について

Impact Frontiers は、インパクト投資を志す投資家がともに学び、インパクト投資市場を協働で形成していくことを目指し、北米・欧州・アジアなどにおいて、インパクト投資及びIMMの実践支援や研修事業、投資家ネットワークの形成等を行うイニシアチブです。

金融実践者が生み出すインパクト — インパクト・アナリスト研修アルムナイ対談 —

※敬称略

[研修参加の目的]

井浦：2021年にグローバル・インパクト・ファンドの立ち上げを行うことになりました。当時は「インパクト・ファンドとは何か？」という問いからスタートし、調べていくうちに「リターンが出るか否かということ以上に重要なことがインパクト・ファンドにはあるのではないか」とその段階で初めて理解しました。せっかく立ち上げるのであれば時代を牽引していくような本物のインパクト・ファンドを作りたいと考えたものの、この業界はまだこれを抑えておけば大丈夫というルールや業界のスタンダードがありません。また業界そのものが発展段階にあるため、今日の常識が明日には変わっている可能性もあります。独りよがりの手探りで進めるのではなく、体系立って知識を習得したいと考え、研修に参加することにしました。

森江：当社は2006年の創業以来、環境とエネルギーに特化したベンチャーキャピタルとしてスタートアップの支援をしてきました。インパクト投資は2019年にインパクト・ファンドを立ち上げた時から行っています。私たちがファンドを始めた当初はまだ国内であまりプレイヤーがおらず、これまでは海外インパクトVCのネットワークからの情報収集が主でした。そこで国内で開催される研修に参加することで自分たちが持っていない情報源にアクセスし、より網羅的にインパクト投資について学ぶことが出来ればという期待感を持って参加しました。

[研修から得たもの]

井浦：私が参加した実践編では、IMM（インパクト測定・マネジメント）のルールメイキングにおける国際的な潮流や、それらが実際に活用されている現場の事例などを海外ゲストから聞くことができました。この領域の本流に触れることが出来たという点において非常に満足しています。またこの研修ならではの点は、この領域における世界のトップランナーたちがインパクト業界という未開の領域を切り拓くために日々格闘しながら歩んでいるということをご本人たちから生の声として聞くことができた点です。私からするとゲストの方々は雲の上の存在と感じていましたが、その方々と画面越しにでも直接お話しして生身の人間としての苦悩や迷いなどを聞いたことは私にとって大きなターニングポイントになりました。未知の領域を歩む苦労は当然のこと、それはネガティブなものではなく、むしろやりがいや喜びであると感じるようになったということが参加して得た一番大きな収穫だと感じています。

森江：私は第2期の基礎編と実践編、両方に参加しています。参加により得たものは、体系立って学ぶことによって自信を持って発信できる、考え方の整理が出来たということです。例えば基礎編ですと、「インパクト小史」などから入り、「インパクト投資はESGと何が違うのか」というトピックの解説や様々な見解が紹介され、参加者を交えた議論がなされました。他にも選択講座として実施されたロジックモデ

ル研修においては、インターネットで調べることができるようなロジックモデルの作成方法ではなく、その場でロジックモデルを実際に作成し、講師の方からフィードバックを貰えたことで自分のツールとして実践的に使える手ごたえを得ました。

[研修参加後の活用]

井浦：上場株のインパクト・ファンドはまだ前例が少なく、どのような表現や解釈をすれば上場株インパクト投資として認められるのか、インパクト・ウォッシングに当たらないのか等について試行錯誤しています。その中で、例えばアディショナリティはどう示すのか、それをどのように説明するのかといった研修で学んだ考え方は、自分の職務に活用することができ、非常にありがたい知識だと感じています。また、他の参加者との化学反応もありました。特に大企業だとインパクト投資に関わっている人間は組織内ではマイノリティなので新しい領域を推進するためには色々なプロセスや交渉が必要となりますが、その時に研修を通じて醸成した信頼関係がある仲間が社外にいることがありがたいですし、その有機的なつながりの中で困っていることを聞くことができたり、新たなアイデアが生まれて仕事に生かすことができたりということがありました。

また、本研修と実務を通して感じるのは、インパクト投資は「何故自分がやるのか」という視点を抜きにはできないということです。これまでの社会が定義してきた「仕事とプライベート」という区分けが実態にそぐわなくなってきた、否が応でも自分の価値観や人生観が仕事に影響してきていると感じます。例えば私は自分の子どもが育っていく100年後の未来を、父親という目線で考えた時に世界の現状は看過できないと思いました。それをファンドに反映させることで、当事



りそなアセットマネジメント株式会社
株式運用部チーフ・ファンド・マネージャー
(参加期：第1期実践編)

井浦 広樹 様

2008年より日本の中小型株のアクティブ運用をファンドマネージャーとして担当。2021年に上場株のグローバル・インパクト・ファンドをリード・ファンドマネージャーとして立ち上げる。



株式会社環境エネルギー投資
(参加期：第2期基礎編、実践編)

森江 久美子 様

総額450億の二つの未上場株インパクトファンドのSDGsやESGをはじめとしたインパクト・マネジメント、およびベンチャーキャピタリストとして新規投資を担当。

者意識をもって取り組んでいくことができるということがインパクト投資のポイントだと感じました。

森江：私にとっての活用方法には2つありまして、1つは2019年より毎年発行しているインパクト・レポートへの活用です。以前は先行している海外事例を参考に、グローバルのトップランナーに引けを取らないよう、積極的にインパクトの可視化、定量化、言語化に取り組んできましたが手探りの部分も多かったです。研修で学んだことでこれまでの自社の取り組みを振り返ることができ、ベースとなるガイドラインや実務者に委ねられているガイドラインの解釈の幅を知ることができ、インパクト投資の理解が深まり、実践的に業務に活用できています。二つ目は定期的に行っている社内勉強会です。社員20名の小さな組織ですので全社員がインパクトについて理解しようということでも勉強会を開催し、その勉強会に研修で得た学びを活用しています。また、井浦さんと同様ですが、他の参加者と悩みを共有したり、後日に個別に事例を紹介しあったりすることでお互いのインパクト投資の取り組みが活性化されているというふうに感じています。

[本研修の社会的価値は？]

井浦：それは人材育成とネットワークだと思います。どの産業を興すにしても古今東西必ず必要なものは人材です。この研修がインパクト投資業界の人材育成のプラットフォームとして機能することで、組織や立場を超えて有機的に化学反応を起こすようになる、またその人々が世の中に偏在することで社会全体を底上げし、インパクトを創出する土壌になると思います。例えていえば明治維新下の松下村塾でしょうか。参加者が同志として刺激し合い、大きなムーブメントを作っていけると感じていますし、私もそこに協力していきたいと思っています。

森江：参加者は未上場株投資、上場株投資、海外の開発途上国への投資、ソーシャルセクターなど多様な領域の方がいました。そういう立場を超えてみんなが同じ土俵で学びの場としてこの研修を過ごせたことが大変意義深いと感じています。そうしたアルムナイが増えていくとそこを起点としてさらにより多くのインパクト投資のプレイヤーが増え、エコシステム構築に繋がるのではないのでしょうか。

[参加を検討する方へのメッセージ]

井浦：この研修に参加する一番大きなメリットは、現在進行形で発展する世界のインパクト業界の動きを肌身で体感して学ぶことが出来るという点です。世界のトップランナーから学ぶことで我々も同じような目線や意識で国内外で活躍していくことが出来ると感じています。また研修を通して出会う様々な背景を持つ仲間、インパクト業界を発展させる仲間です。同業他社のライバルではなく同志として、インパクト投資を通じて世界中の社会課題を解決するための1つのステップとして1人でも多くの方にこの研修に参加いただき、一緒に世界を変えていきたいと思っています。

森江：本研修はインパクト投資を始めたい、既に始めているが体系立って学びたいという方にとって、インパクト投資のスターターキットとして活用できると思います。私のように既に従事している人にとっても常にアップデートされる最新動向をキャッチアップすることが出来ますし、またこうした本質的な議論を行う守られた場があることでインパクト投資のプレイヤーが一人でも増え、一人ひとりが出来ることで社会課題解決に取り組んでいけるという世界観を一緒に作っていかれたらと思っています。



担当者コメント



千葉 直紀

第1期実践編担当者
(研修開発、選択講座・アルムナイコミュニティ担当)

情熱ある実務者がつながり、刺激しあうコミュニティに。

資本主義を“新しい方向”に導く燈としてのインパクト・ファイナンス、その前線で実務を担う“インパクト・アナリスト”のための研修は2年目を迎えました。初年度の2022年は模索しながらなんとか形作ってきましたが、2023年はその土台があった上で、講師やアルムナイの方達にも相談しながら今後の研修のあり方やアルムナイコミュニティの発展の仕方を構想する一年になりました。

この研修で得られたことについて修了者にお話を伺うと、「研修により考え方のパラダイムシフトが起きた（仕事観だけでなく、人生観も変わった）」、「所属先の金融機関で働く意味が見出せてコミットメントが高まった」、「“インパクト”という明確なキャリアの軸ができた」等の声が聞かれます。研修効果として知識やスキルの面だけではなくマインド面とネットワーク面の変化が大きいということが見えてきました。研修修了後もアルムナイの勉強会や情報交換は継続しており、期を越えてのコミュニケーションも生まれています。

これからも情熱ある実務者同士がつながり、刺激しあえるよう、研修の枠組み自体をさらに発展させていきたいと考えています。また関係機関等と連携して、例えば金融機関の次世代経営者育成に社会的インパクトやインパクト・ファイナンスといった視座を提供したり、若手人材向けに手軽に学べるようなコンテンツを提供したり、要望を多くいただいている資格化の検討を進めるなどしていけたらと考えています。マルチステークホルダーのプラットフォームのSIMIならではの強みを活かし、国内の様々な立場の方と対話して協力し合いながら、これからの社会に求められる枠組みをつくっていけたらと考えています。このインパクト・アナリスト研修の動きに関するお問い合わせはウェルカムです。いつでもご連絡ください！



松島 拓

第2期基礎編担当者
(実践編・基礎編担当)

多様なバックグラウンドを持つ受講者による有機的な学び合いの場に。

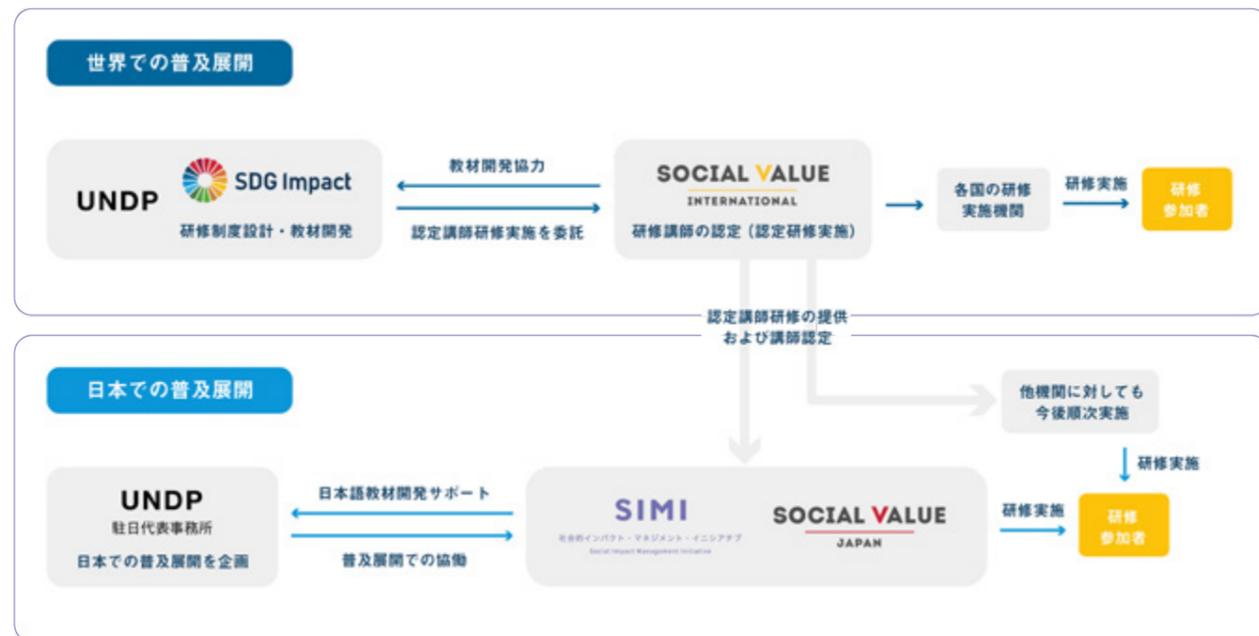
インパクト・アナリストとはどんな役割を果たす人なのかという問いに向き合った第1期の学びを踏まえて、第2期ではインパクト・アナリストが必要な研修とコミュニティとは何かという問いに答えようと模索してきました。

受講者全員がインパクトファイナンスの実践者であること、特定のアセットクラスや分野に限らない多様な受講者がいること、実務の悩み・課題を共有できる場をつくることなど、様々な試行錯誤から見てきた研修の価値として、私たちが想定していたものよりもはるかに有機的な学び合いが生まれています。国際交流基金との協働による結果でもあり、これからもこの学び合いを深め、広めていくために取り組んでいきたいと思っています。

SDGインパクト基準

— SDGインパクト基準研修が世界に先駆けて日本で提供開始

当法人のメンバー4名は2022年8月、国連開発計画(以下UNDP)が開発した企業・事業者向け「SDGインパクト基準研修」の認定講師資格を取得しました。それを受けて、2022年8月～10月に世界に先駆けて日本で「SDGインパクト基準研修」を実施いたしました。受講したのは、みずほフィナンシャルグループおよびみずほ銀行の社員30名です。SDGインパクト基準研修は、経営や事業の中核に持続可能な開発目標（SDGs）を組み込み、SDGs達成に向けた民間資金の流れを拡大するためにUNDPが立ち上げた「SDGインパクト」というプロジェクトの一環として開発されました。「SDGインパクト」プロジェクトは、SDGs達成につながる投資や事業などの世界基準を策定し、研修を実施し、ゆくゆくはその基準に適合した案件を認証するものです。研修提供においては、研修開発に協力しているSocial Value Internationalの日本唯一の加盟組織である特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパンと連携し、実施します。



理事から見た本事業のポイント | 伊藤 健 | 業務執行理事

2022年度に実施したSDG Impact基準についての研修事業は、SIMIが目指すインパクトマネジメントの社会への普及に向けた実装として大きな意義のあるものでした。SDG Impact基準は、UNDPがグローバルに実施する、企業や金融機関におけるインパクトマネジメント基準の認証制度を目指しており、その第一陣としてSIMIとSVJから合計7名の認定トレーナーを輩出、みずほフィナンシャルグループ、みずほ銀行を対象にした研修を実施できたことは、日本における同基準の普及啓発に端緒をつけるものとなりました。2023年度には経団連と協力しての企業向けの研修も予定しており、今後のインパクトマネジメント基準の日本での確立に向けた取り組みが加速することを期待しています。

SIMI COMMENTS

受講企業の声



末吉 光太郎

みずほフィナンシャルグループ 兼 みずほ銀行
サステナブルビジネス部 副部長

みずほ銀行入行後、大企業法人営業、国際業務・国内法人業務企画部門等を経て法人向けサステナブルビジネス企画を担当。22年9月からサステナブルビジネス部 副部長に着任。GSG国内諮問委員会 委員、インパクト志向金融宣言 運営委員等

SDGインパクト基準研修の参加にあたって

「地球温暖化の時代は終わった、地球沸騰化の時代が到来した。」

7月に発信された国連のアントニオ・グテーレス事務総長の危機感を受け、ちょうど1年前から参加したSDGインパクト基準研修で得た学びの実践を加速する必要性を痛感しています。

SDGインパクト基準研修では、経済価値と社会価値の両立を重視するインパクト志向の新たな企業経営の理解と実践知を得ることが出来ます。具体的には、12のマネジメントプロセスを何れも、ケーススタディによるリアルな実例を通じて体得します。

多様なステークホルダーとの対話を通じ企業のパーパスから重要インパクト領域を特定し経営戦略に落とし込んでいく、また、考慮すべきリスクや検討のポイントを網羅的に学ぶことができ、SDGインパクト基準の考え方そのものが企業価値向上に必要なプロセスとなることを理解できたとの声が、多数の参加者からあり、〈みずほ〉のインパクトに取り組む姿勢強化に繋がったと感謝しています。

国連開発計画（UNDP）担当者コメント



Fabienne Michaux, Director, UNDP SDG Impact

2023年は、私たちグローバルコミュニティが平和で包括的、持続可能な未来を実現するために共有している、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための中間地点にあたります。

しかし現状は、このより良い未来を実現するための「事業計画」であるSDGsから、依然大きく乖離しています。現在、SDGsの目標の半数近くが中程度または著しく達成されていない状況です。新型コロナウイルスの世界的大流行、拡大する気候危機、暴力的な紛争を含む一連の連鎖的な危機がSDGsの進捗を停滞、逆行させているのです。この状況はビジネス界に、リスクと機会の両方を生み出しています。

SDGインパクト基準は、組織がサステナビリティを事業や投資の意思決定の中核に据え、SDGsに貢献する意思を行

動に移し、SDGs達成に向けた民間セクターの貢献を加速する手助けをします。これは本基準が、組織とステークホルダーがサステナビリティの課題と機会に対処し、イノベーションと協働を促進し、信頼性を高めるためのシステムレベルのアプローチを提供しているためです。

SDGインパクト基準への関心が日々高まっています。UNDPは、日本国内及び途上国市場への支援といった数多くの好事例により、SDGインパクト基準の組み込み、実践において、日本を非常に強力な実証ケースとして位置づけています。これが、私たちがSIMIおよびSVJと協働しながら、日本で最初にSDGインパクト基準認定講師研修と企業向けのSDGインパクト基準研修を開始した理由であり、これまでに日本からは7人のSDGインパクト基準の認定講師を生み出しています。

みずほフィナンシャルグループおよびみずほ銀行は、この新たに認定された講師によるSDGインパクト基準研修を受講した最初の企業となりました。*1 また日本経済団体連合会（経団連）は、昨年改訂した企業行動憲章 実行の手引きの中でインパクト評価のマネジメントツールとしてSDGインパクト基準を取り上げ、今年度は会員企業を対象としたSDGインパクト基準研修の提供を行いました。

私たちは、自己評価ツールを活用し、組織の行動計画の作成、現在開発中の認証制度等、日本の組織にSDGインパクト基準を活用することで、SDGsへの積極的な貢献に取り組んでもらうことを期待しています。*2

詳細リンク *1 : <https://www.undp.org/ja/japan/news/sdg-impact-training-2022> | *2 : <https://simi.or.jp/sdgiimpact-training/>

Social Impact Day 2023

Social Impact Day 2023は社会的インパクト・マネジメントに関する国内外の最新動向を議論する日本最大級のイベントです。7回目を迎えました本イベントは、登録者630名と昨年を上回る登録者数となり、全46名のゲストを迎え開催いたしました。

本イベントでは以下のテーマに対し、3つのエリアに基づいてセッションを設定し、議論を深めました。



共催団体 一般財団法人 社会変革推進財団

Social Impact Day 2023 テーマ

新しい社会経済の形 「インパクト・エコノミー」の社会実装

インパクト・エコノミーは、従来の私的な経済的利益追求型の資本主義に対するオルタナティブ（代替）になりうるのでしょうか。そのために、誰が、何をしていくのでしょうか。

インパクト・エコノミーを推進する3つのエリア

area 1 インパクト・エコノミーの社会基盤構築

国際機関や政府レベルのインパクト・エコノミー実現に向けた政策的な動向を紹介するエリア

area 2 インパクト・エコノミーの実践モデル

金融・企業・NPO・行政などの各セクターにおいて、どのようにインパクト・エコノミーの実験・実践がなされているのか、社会的インパクト創出の先駆的な取り組みなども含めて紹介するエリア

area 3 インパクト・エコノミーのアクターたち

金融・企業・NPO・行政などの各セクターにおいて、「想い」と「意思」をもつ個人がどのようにキャリアを歩んでいけばよいかを考えたり、次の世代のことを知ることができるエリア

基調講演

インパクト・エコノミーと日本への期待、日本の役割

Speaker



ロナルド・コーエン 卿
インパクト投資グローバル運営委員会(GSG)会長、
ポートランド・トラスト会長



藤沢 久美 氏
株式会社国際社会経済
研究所理事長

Special Session 1

インパクト・エコノミーに向けて：ビジョン、イノベーション、デザイン

Speaker

- 菅野 文美 氏 (一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・エコノミー・ラボ 所長)
- 米良 はるか 氏 (READYFOR 株式会社代表取締役 CEO)
- 林 篤志 氏 (Next Commons Lab ファウンダー)
- 岩淵 正樹 氏 (JP モルガン・チェース銀行 デザイン・フューチャリスト、東北大学客員准教授)
- 銭谷 美幸 氏 (株式会社三菱UFJ銀行 チーフ・サステナビリティ・オフィサー)
- 森脇 大輔 氏 (株式会社サイバーエージェント AI Lab リサーチサイエンティスト)

Moderator

- 工藤 七子 氏 (一般財団法人 社会変革推進財団 常務理事)

Special Session 2

SDGインパクト基準が創る未来-世界初の公式研修実施の学びと、認証制度に向けたグローバルの最新動向

Speaker

- ファビエンヌ・ミショー 氏 (UNDP-SDGインパクトチーム ディレクター)
- 末吉 光太郎 氏 (みずほフィナンシャルグループ 兼 みずほ銀行 サステナブルビジネス部 副部長 兼 法人業務部 サステナブルビジネス企画室 室長 兼 SDGsビジネスデスク デスク長)

Special Session 3

B Labと国内B Corp企業登壇！～B Corpムーブメントから見る未来の企業のあり方～

Speaker

- Bart Houlahan 氏 (B Lab 共同創業者)
- 鳥居 希 氏 (株式会社バリューブックス 取締役 いい会社探求)
- 酒井 里奈 氏 (株式会社ファーマンステーション/Fermentation 代表取締役)
- 戸田 満 氏 (一般財団法人社会変革推進財団 (SIIF), Impact Economy Lab Impact Catalyst)

参加者の声

基調講演にてコーエン卿が世界の視座で、これからの資本主義に日本もリーダーシップをと野心的なお話をされ、しかし日本は内向きな現況で、この開きをどうしたらと悩みました。ですが、藤沢久美さんが基調講演の結びで新たな可能性を説かれ、「世界と日本を知る私たちは突破口を見つける務めがある」と、うれしくなりました。

基調講演において藤沢 久美様が仰った「30年日本が衰退したがイノベーションの鍵がインパクト・エコノミーであり、企業活動はすべてインパクト・エコノミーの中に入って行く。未来の子供たちに楽しく安心して生きていけるための、インパクト元年としたい」というお言葉について大変共感いたします。次の世代のためにできることに邁進していきたいと思えます。

セッションの内容が実務的、かつ広範囲にわたったことで「インパクト投資の世界で、今起きていること」を感じることができた。また、それがその世界と弊社の置かれている現状との違いを意識することにつながっているように思う。

Z世代のスタートアップ経営者の方々の、率直でリアルなお話に心打たれました。インパクトと事業成長が両立する事は是非とも証明頂きたいです。頑張ってください！

みなさんととも発言にも表情にも風貌にも服装にも気持ちいい方たちで、しかも生き方がかっこいい。日本の未来に可能性をととも感じることができました。

数字で見るSocial Impact Day2023



理事から見た本事業のポイント | 幸地正樹 | SIMI 理事

Social Impact Day2023 で個人的に特に印象に残ったのは、行政セッションでの多様な関係者との協働に関する議論です。SIM に取り組むプロセスにおいて、社会的インパクトを共通言語とし、発注者や受託者、投資する側と投資される側という関係性を超え、共にインパクト追求に向け協働をした話がありました。社会的インパクトの概念がまだほとんど知られていなかった10年前、このような動きが広まってほしいと思って私自身もこの領域に飛び込み、その時の期待が今実際に起きて広がっている。このことは、胸に迫るものがありました。

一方、社会的インパクトの結果(数値)のみを比較することは、協働ではなく単に競争社会に追随する懸念もあり、本当に社会が良くなるか深く見つめる必要があると思います。インパクト・エコノミーという概念に期待が集まる今だからこそ、多様な視点で気づきを得られる Social Impact Day にしていければと思います。次回もご期待ください！

SIMI COMMENTS

メンバーシップ活動

日本全体に「社会的インパクト・マネジメント」を普及させることを目指し、SIMIの理念に共感・賛同し、ともに活動を推進するメンバー(組織・個人)を募集しています。メンバーには、金融機関から事業者、研究者、非営利組織まで多様なメンバーが参加し、社会的インパクト・マネジメントの実践と普及に取り組んでいます。2023年6月末時点で327の個人・組織がエンゲージドメンバー、賛同メンバーとして参加しています。

SIMIのメンバーシップは、SIMIの事業や活動に主体的に関わる「エンゲージド・メンバー(有償)」と、ビジョンや活動に共感・賛同する「賛同メンバー(無償)」の2種類があります。

2022年度は、エンゲージド・メンバーの方に向けてエンゲージド・メンバー限定の勉強会を複数回開催しました。その他、エンゲージド・メンバーはSIMIが主催するイベントへの無料招待、割引などの特典を用意しています。

エンゲージド・メンバー限定勉強会

2023年に行ったエンゲージド・メンバー限定の勉強会の一つに「実践から学ぶインパクト加重会計」があります。企業の活動が環境・社会にもたらす正と負の「インパクト」を貨幣価値に換算し、従来の財務会計に統合して開示する「インパクト加重会計 (Impact-Weighted Accounts)」の取り組みが、グローバル企業を中心に広がり始め、SIMIのエンゲージド・メンバーも高い関心を寄せています。そこで、ハーバード・ビジネス・スクールのリサーチフェローとしてインパクト加重会計の調査・研究および日本の政府関係者やビジネスパーソンへの普及・啓発活動に従事した経験を持つ五十嵐剛志氏へ協力を仰ぎ、実践につなげることに重点を置いた本セミナーを開催いたしました。

当日は、五十嵐氏の指導により、練習課題を用いた「実践ワーク」なども取り入れ、より具体的な疑問や課題解消へつながる勉強会となりました。

また会場はエンゲージド・メンバーでもある一般社団法人 官民共創HUB様よりご提供いただきました。官民共創HUBは、官民の垣根を超えた共創により、明るい未来と社会的意義のある事業が生まれることを目的に運営されています。SIMIでは官民共創HUB様の理念に共感し、また官民共創HUB様としても企画内容と場のコンセプトがマッチし相乗効果が期待できることから、イベント開催に際してはこれまで複数回、会場のご提供をいただいております。



ゲスト

五十嵐 剛志 氏
(KIBOW社会投資ファンド
インベストメント・プロ
フェッショナル/公認会計士)



会場提供：一般社団法人 官民共創 HUB

メンバーシップ推移表



SIMIのメンバーシップ制度は2016年に活動を始めた当初のメンバーシップを引継ぎ、実施しています。メンバー数は年々増加し、社会的インパクト・マネジメントに対する関心の高さが現れているといえます。SIMIでは更に会員の方々とともに社会的インパクト・マネジメントを推進していきます。

メンバーシップ制度のご案内

日本全体に「社会的インパクト・マネジメント」を普及させることを目指し、SIMIの理念に共感・賛同し、ともに活動を推進するメンバー(組織・個人)を募集しています。2023年6月末時点で327の個人・組織がエンゲージドメンバー、賛同メンバーとして参加しています。

1. エンゲージド・メンバー (有償)

社会的インパクト・マネジメントに関心のある組織・個人でSIMIの事業や活動に共感・賛同することを表明し、活動を主体的に支えるメンバーです。

会費 (年間)

- ①10万円： 前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円以上の組織 (非営利・営利を問わず)
- ②5万円： 前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円未満の組織 (非営利・営利を問わず)
- ③1.2万円： 個人
※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。

会員特典

- ① エンゲージド・メンバー限定の SIMI に関する勉強会・交流会への参加権利
- ② Social Impact Dayの無料招待、SIMI に関する研修、イベントなどの参加費の割引
- ③ SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMI に関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信 (組織会員のみ、年4回まで)
- ④ SIMIのWebサイトにおけるロゴまた組織名の掲載 (組織会員のみ)

ご登録方法

ウェブサイト *3 の登録申込ページよりフォームに必要事項をご入力の上、ご送信ください。内容を確認後、事務局より連絡いたします。ご不明な点がございましたら、事務局(info@simi.or.jp)までお問い合わせください。

2. 賛同メンバー (無償)

社会的インパクト・マネジメントに関心のある組織・個人でSIMIの事業や活動に共感・賛同することを表明するメンバーです。

会費 (年間)

- 無料
※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。基本的に自動更新です。

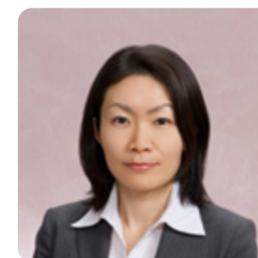
会員特典

- ① SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMI に関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信 (組織会員のみ、年2回まで)
- ② SIMIのWebサイトにおけるロゴまた組織名の掲載 (組織会員のみ)

理事が考えるメンバーシップ制度のポイント | 高木 麻美 | SIMI 理事

SIMIでは毎年様々な場を作っています。Social Impact Day2023では昨年度に引き続き「インパクト・エコノミー」をテーマに掲げました。そこでは、「インパクト・エコノミーという言葉は初めて聞いたのでこれを機に考えてみた。」という登壇者をはじめ、多様なバックグラウンドを持った方々にご参加いただきました。このように、この1年、インパクトをめぐる集う人たちが増え、また、多様になってきたという印象を持っています。

SIMIのメンバーについても同様です。SIMIにエンゲージド・メンバーや賛同メンバーとして、あるいは研修等を通じて参画いただいている中には、社会課題解決やイノベーションの創出に強い意欲を持ち、世の中をリードするような取り組みをされている方から、新たに取り組みを始めたい方まで、多様な組織や個人の方々がいます。メンバーからSIMIに寄せられる疑問や関心も、インパクトに関わるグローバルな潮流からインパクト・マネジメントの実務まで様々です。SIMIでは、単に知識や経験の提供にとどまることなく、インパクトに関心を有する皆様が集い、共に議論し考えるような場づくりを目指しています。今後は対面やハイブリッドの場も増やしていきますので、ぜひご参加ください。



SIMI COMMENTS

詳細リンク *3: <https://simi.or.jp/about/member>

2022年度エンゲージド・メンバー紹介 (一部)

22年度エンゲージド・メンバー 組織会員数：31組織



(五十音順)

22年度エンゲージド・メンバー 個人会員数：93名

2022年度のその他の活動

活動01 | 投資ネットワーク

GSG国内諮問委員会

インパクト投資市場やエコシステムの拡大を目指すネットワーク「GSG国内諮問委員会」では、金融庁・NAB共催「インパクト投資に関する勉強会」フェーズ2に代表理事の今田が委員として参加するほか、事務局として同勉強会に参加しました。また、IMMワーキンググループのデット（融資・債券）分科会の運営の一部に参加し、IMM実践ガイドブックの作成などにおいて事務局業務の一部を担いました。



インパクト志向金融宣言

国内の金融機関がインパクト志向の投融资の実践を進めるイニシアチブである「インパクト志向金融宣言」には、賛同団体として参加し、運営に携わっています。2022年度は、IMM分科会において代表理事の今田が座長（暫定共同座長）として就任し、また海外連携分科会と連携して海外ゲストを招いたイベントを複数回開催しました。



活動02 | 明治大学リバティアカデミー

明治大学リバティアカデミーと連携し、社会人向け講座「社会的インパクト・マネジメント基礎講座～インパクトを最適化し、社会課題解決を促進する新たな手法～」を開催しました。申込者数は全20名となり、全三回に渡って講義を行いました。



【ゲスト講師】
吉田 ゆかり
特定非営利活動法人未来ISSEY
代表理事

活動03 | イベント

SIMIでは社会的インパクト・マネジメントに関する様々なイベントを実施しています。2022年度も、入門者向けのセミナーや実践者向けのセミナーなど多様なテーマでイベントを開催しました。どのイベントも社会的インパクト・マネジメントの最前線で活動されている方をゲストにお迎えし、実践的な学びを得ることができる場となりました。



社会的インパクト・マネジメント入門セミナー
～社会企業の事例から学ぶ営利セクターにおけるSIM～



インパクト測定とリークデータのアプローチ
～測定フレーム、指標、データ収集・分析から行動へ

活動04 | GRC

SIMIグローバルリソースセンターは、社会的インパクト・マネジメント、インパクト投資、サステナブル・ファイナンス全般における海外の主要リソースをピックアップして日本語でわかりやすく解説する、情報ポータルサイトです。社会的インパクト・マネジメントを取り巻く概念を、「社会的インパクト・マネジメント」「サステナブル・ファイナンス」「インパクト投資」「新しい資本主義」の4つのテーマに分類。各テーマの概要や、注目すべきサブテーマ、主要なプレイヤーを紹介し、その内容や重要性について解説しています。2022年度も注目すべき資料の翻訳を行いました。



上場株投資を通じた
インパクト投資に関するガイダンス

Guidance for Pursuing Impact in Listed Equities
著者：GIIN's Listed Equities Working Group
発行年月：2023年3月



投資家が行うインパクトマネジメントの
ベンチマークスタディ

Making the Mark: Benchmarking Impact Management Practice
著者：BlueMark
発行年月：2023年5月

組織概要

名称	一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (英文表記: Social Impact Management Initiative)	
設立	2020年10月	
登記住所	東京都渋谷区	
代表者	今田 克司 (株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役)	
評議員	青柳 光昌	一般財団法人社会変革推進財団専務理事
	有馬 充美	西武鉄道株式会社社外取締役、 株式会社プリンスホテル社外取締役
	太田 達男	公益財団法人公益法人協会会長
	澁澤 健	コモンズ投信株式会社取締役会長、 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役
	水口 剛	公立大学法人高崎経済大学学長
	源 由理子	明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科専任教授
監事	鬼澤 秀昌	おにざわ法律事務所代表
	上原 丈弥	タイガーマブ株式会社CFO
理事	代表理事	今田 克司 (株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役)
	業務執行理事兼専務理事	鴨崎 貴泰 (特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会常務理事)
	業務執行理事	伊藤 健 (特定非営利活動法人ソーシャルバリュー・ジャパン代表理事)
	業務執行理事	幸地 正樹 (ケイスリー株式会社代表取締役)
	業務執行理事	高木 麻美 (株式会社Stem for Leaves代表取締役)
Webサイト	https://simi.or.jp/	



理事からのメッセージ | 鴨崎 貴泰 | SIMI 業務執行理事

SIMIは「あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた参画・協働を加速する共創基盤を提供する」ことをミッションに掲げるマルチセクター・イニシアチブです。

したがって、私たちは常にSIMI単体でインパクトを生み出すのではなく、協働によるコレクティブ・インパクトの創出と生み出したインパクトの業界全体への貢献(波及効果)を考えながら事業運営を行なっています。

来年度もインパクト志向での事業運営や業界、分野を超えた仕組みづくりなどに関心のある企業・団体のみなさんは是非お気軽にSIMIへご連絡いただければと思います。

SIMI COMMENTS

会計報告

正味財産増減計算書

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
経常収益計	67,260,381	
(2) 経常費用		
事業費計	53,439,688	
管理費計	3,047,146	
経常費用計	56,486,834	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益		
前期損益修正益	0	
(2) 経常外費用		
経常外費用	0	
前期損益修正損	0	
当期経常外増減額	0	
税引前当期正味財産増減	10,773,547	
法人税、住民税及び事業税	955,900	
当期一般正味財産増減額	9,817,647	
一般正味財産期首残高	3,293,992	
一般正味財産期末残高	13,111,639	

II 指定正味財産増減の部

一般正味財産への振替額	0
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	3,000,000
指定正味財産期末残高	3,000,000

III 正味財産期末残高

16,111,639

2022年7月1日から2023年6月30日まで (単位:円)

貸借対照表

I 資産の部

1. 流動資産	
普通預金	37,835,792
仕掛品	8,098,337
未収金	129,500
流動資産合計	46,063,629
資産合計	46,063,629

II 負債の部

1. 流動負債	
未払金	4,401,837
前受金	24,594,253
未払法人税等	955,900
預り金所得税	0
流動負債合計	29,951,990
負債合計	29,951,990

III 正味財産の部

1. 指定正味財産	3,000,000
2. 一般正味財産	13,111,639
正味財産合計	16,111,639
負債及び正味財産合計	46,063,629

2023年6月30日現在 (単位:円)